

2017/06/04 礼拝メッセージ エドワード・イシドロ牧師

主 題：宣教・キリストとともに  
聖書箇所：ヨハネの福音書 20章19-22節

近藤牧師より = 今日、メッセージをしていただくエドワード・イシドロ先生は、1998年からインターナショナル・バプテスト大学と神学校の学長を務めておられます（フィリピン）。ご存じのように、この学校はガビノ・ティカ先生が1973年に始められたので、今から44年前に開校したことになります。なぜ学校を必要としたか？ガビノ先生は「フィリピンに必要なのはお金ではなく教育だ」ということで、幼稚園から大学まで、そして、神学校を始められたわけです。ガビノ先生は2012年に主に召されましたが、1998年に1回目の脳梗塞に倒れられてからは、エドワード先生が学校の責任を持つことになりました。そして、現在、パッシングというマニラから車で30分位離れた町の教会で牧会をしておられます。その教会ができて25年経つということですが、私も毎年フィリピンに行った時にはそこでメッセージの奉仕をします。教会での働きをされながら、多くの責任ある働きをしておられます。

私が彼と出会ったのは1985年か86年頃、今から30年余り前になりますが、その時から主にある親しい交わりを持っています。場所が違って、私たちは主にある者として救われた者として、主が召してくださった働きを忠実に歩んでいきたいと思っています。エドワード先生が来られると、フィリピンの方々も何人か来られるのですが、残念ながら、フィリピンの皆さんのお住まいは遠い所ばかりでなかなか集うことができません。私たちは神によってこのような交わりをいただいて今日までいろんな形で神の働き的一端を担うことができていることは感謝です。今日のメッセージの通訳は近藤崇志です。私も思い出すのは、今から何年も前、イギリスのスポルジョンの教会でカンファレンスがあって、デフの皆さんと一っしょに参加し、そこで通訳したのですが、ウェールズの年輩の牧師先生がメッセージをされたのですが、最初から最後まで言っていることの意味が一言も分からないのです。横にいたアメリカ人に聞いても「我々もわからない」と言われたので少しホッとしたのですが、通訳をする人は緊張があって難しいものです。どうぞ、皆さんが祈りをもって聞いていただければと思います。

拍手をもってエドワード先生をこの講壇にお迎えしたいと思います。

おはようございます、皆さんのお祈りに感謝します。このようにしてまた戻って来られたことを嬉しく思っています。皆さんのサポートにも感謝しています。この浜寺聖書教会と私たちのフィリピンの教会は長い間の関係を持っています。この浜寺聖書教会を私たちの第二の家と感じています。ですから、また皆さんとこのようにお会いできたことを感謝しています。また、皆さんが私たちの滞在中もいろいろお世話してくださっていることにも感謝しています。近藤牧師が皆さんに伝えているのかどうか分かりませんが、私は皆さん全員を私たちの教会に招待したいです。そして、何人かの方々には宣教の働きのためにフィリピンの地に来ることができればと思っています。何年も前ですが、私たちの教会からも宣教師を送っていました。テロリストには心配しないでください。私たちが皆さんのことをお世話します。きちんと警備員を付けます。皆さんとお会いできることを楽しみにしています。

今日、皆さんとともに聖書を通してともに祝福に与れますように願っています。今朝のメッセージのタイトルは「宣教・キリストとともに」となっています。聖書の箇所はヨハネ20章19-22節です。「:19 その日、すなわち週の初めの日の夕方のであった。弟子たちがいた所では、ユダヤ人を恐れて戸がしめてあったが、イエスが来られ、彼らの中に立って言われた。「平安があなたがたにあるように。」:20 こう言ってイエスは、その手とわき腹を彼らに示された。弟子たちは、主を見て喜んだ。:21 イエスはもう一度、彼らに言われた。「平安があなたがたにあるように。父がわたしを遣わしたように、わたしもあなたがたを遣わします。」:22 そして、こう言われると、彼らに息を吹きかけて言われた。「聖霊を受けなさい。」

この箇所は、イエス・キリストが死んで葬られたその後にかかれた。イエス・キリストの復活のことを聞くと、それに関して、多くのうわさや迷信を聞きます。イエス・キリストが復活されたというニュースは様々な弟子たちに伝わりました。最初、弟子たちは疑いを抱きましたが、後に、弟子たちは大いなる喜びを抱くようになります。弟子たちでさえイエス・キリストが復活されたことを聞いたとき、初めはそのことを確信することができませんでした。トマスを思い出してください。彼は「証拠を見せてください」と言いました。しかし、私たちがイエス・キリストの復活を考えた時に、それは私たちの生活を変える力があると言うことができます。私たちが造り変えるこの力は、今日生きている私たちにとっても同じ力です。イエス・キリストは今このときにも私たちに同じ力を与えてくれています。

皆さんは、イエス・キリストの宣教を動機づけるものが何か知っておられますか？私たちがこの復活の力をうちに持つときに、120人の男女が変えられたのと同じ力を持つことができます。この力は今日も変わらず私たちも持つことができます。そして、この同じ力は私たちを宣教へと駆り立てる、送り出す力を持っています。1953年、二人の登山家が初めてエベレストを登頂しました。世界で一番高い山です。その達成によって二人の登山家は有名になりました。しかし、その3年前に別の二人の男性によってヒマラヤ山脈のアンナプルナI峰が登頂されました。8091mの高さでした。彼らはフランス隊の登山家でしたが、大変な困難を経て頂上に着いた時このように言いました。熱い心で「私たちの心は表現できないほどの喜びに満ちています！！」と。そして「この喜びを他の人も知ることができたらいいのに…」と言いました。今日のテキスト、ヨハネ20：19の初めには「その日、すなわち週の初めの日の夕方のであった。弟子たちがいた所では、ユダヤ人を恐れて戸がしめてあったが、」と書かれています。皆さんに比較していただきたいのですが、イエス・キリストが復活を成したときの喜びはアンナプルナを登頂したものよりも遥かに優れたものでした。

イエス・キリストの復活はすべてのものを彼の統治下に置き、死にも打ち勝つものでした。天にあるイエス・キリストの愛が地獄を打ち負かすことになりました。勝利されたイエス・キリストは、弟子たちの顔を見てこのように言われました。「イエス・キリストが勝利されたものをあなたがたも掴んでいなさい。あなたがたには責任があります。あなたがたが知ることができた喜びを他の人たちも知ることができるように、父なる神がわたしを送り出したように、わたしもあなたがたを送り出します。」と。今朝は、三つのポイントを通してそのことを考えていきたいと思えます。

## ★ 宣教・キリストとともに

### I. 恐れから信仰へ 19-20節

19節「その日、すなわち週の初めの日の夕方のであった。」、イエス・キリストのからだは土曜日には墓の中に横たわっていました。そして、そのイエス・キリストのからだは墓からよみがえったことが週の初めの日、すなわち、日曜日に起こったのです。ですから、日曜日が「主日」と見ることができます。主日ということ考えた時、イエス・キリストは土曜日に古い契約を完了され、日曜日、主日に新しい契約をも完了されたということです。

私たちが週の初めの日、日曜日を考えた時に、多くの人たちがスポーツを観戦したり、また、パーティーなどをして、本来の「イエス・キリストの主日」とかけ離れたものとして過ごしているのを見て、私は非常に悲しく思います。しかし、私たちクリスチャンは、主日に兄弟姉妹たちと賛美をささげ、聖書を学び、また、祈りをささげます。多くのクリスチャンたちがそのように過ごしています。日曜日は新しい週の初めの日です。ただ週の初めというだけでなく、日曜日は「主日」です。私たちはこの特別な日に主に対してお返しをするべきです。イエス・キリストが復活された後、少なくとも5回、弟子たちや人々の前に現われましたが、それらはすべて週の初めの日でした。

最初にマグダラのマリアの前に現われました。また、他の女性たちの前に現われたのも日曜日でした。また、ペテロにもそうでした。エマオ途上の二人の弟子たちにもそうです。トマスを除く弟子たちに現われたのもそうでした。また、次の週の日曜日にはトマスもいたときに弟子たちにイエスは現われました。イエス・キリストが現われたことを考えたとき、常に、イエス・キリストは主日に現われました。これを「主日」と呼んでいます。このような人たちはその主日に神を誉め称えていました。また、それだけでなくイエス・キリストの死と復活を覚えていました。

皆さんに気づいていただきたいことは、弟子たちが集まっていた所は戸が閉まっていたということです。なぜ、戸が閉まっていたのでしょうか？それは弟子たちがユダヤ人たちが自分たちを攻撃するかもしれないと恐れていたからです。19節を見ると「弟子たちがいた所では、ユダヤ人を恐れて戸がしめてあったが、」と書かれています。弟子たちは本当に恐れを抱いて集まっていたのです。しかし、ここにイエス・キリストが入って来たときに、彼らの恐れは信仰に変わったのです。イエス・キリストが入って来たときに戸は閉じられていました。皆さん、想像してください。戸が閉まった状態でイエスが入って来たときの弟子たちの恐れはどれ程のものだったのでしょうか？しかし、イエス・キリストは目に見えるからだをもって現われました。20節に「こう言ってイエスは、その手とわき腹を彼らに示された。弟子たちは、主を見て喜んだ。」とあるように、彼らはイエスの手とわき腹に触ることができたのです。

ですから、弟子たちはイエスを見た時に、彼らの恐れが信仰へと変わりました。イエス・キリストは弟子たちに向かって「平安があなたがたにあるように。」と言われました。ここにいる人たちの中にもそのような恐れをもっている人がいるかもしれません。私はその人たちに対して、イエス・キリストを継続して信頼することでその恐れは信仰に変わるということをもって励ましたいと思えます。なぜなら、イエス・キリストは平安をもって私たちの所に来られたからです。彼らに「平安があるように」と言わ

れた後、彼らが落ち着いたとき彼らは喜びに満ち溢れました。

イエス・キリストが現われたときに弟子たちは「この方こそ神だ」という確信を得ることができました。その時、弟子たちにとってイエス・キリストは友人であったように、今も変わらず、私たちにとっても同じ方です。なぜなら、私たちの平安はイエス・キリストにのみあるものだからです。彼は私たちのために死なれ、私たちのために復活され、今、私たちのうちで生きておられます。彼は私たちのすべての代価を支払われました。そして、イエス・キリストは今も私たちをご自分の許へと招き入れてくださっており、その結果、私たちは本当の平安をもって歩むことができるようになるのです。

皆さんもお気付きになるように、弟子たちはイエス・キリストに会ったときに本当の喜びを経験しましたが、私たちもその喜びをとともにできるのです。イエス・キリストに会ったときに恐れが本当の喜びへと変りました。私たちの恐れも信仰へと変わることができます。

## II. 終わりまで始まりへ 21節

21節「イエスはもう一度、彼らに言われた。「平安があなたがたにあるように。父がわたしを遣わしたように、わたしもあなたがたを遣わします。」、イエス・キリストは弟子たちに「そこに平安があるのです」ともう一度確信を抱かせる必要がありました。それによって彼らがもう恐れを抱くことがないようにするためです。イエス・キリストにある平安を弟子たちが持つことによって、彼らはイエス・キリストにある宣教を理解するのです。宣教に関して、今私たちに求められているのは、私たちが今いる所から出て行くことです。イエス・キリストは私たち罪人のためにこの地上に来られました。そして、罪人のところに出て行き、罪人を愛し病を癒されました。今の私たちにも同じように、罪人のところに出て行ってイエス・キリストの復活を伝えなさいと教えられているのです。それによって救いがどのようなものかを知るためにです。この働きにあって、私たちは神とともに働きをすることが必要です。なぜなら、私たちは神とともに働くという責任があるからです。私たちが今あるこの人生はキリストのための働きだからです。

ここで、皆さんに地獄がどういうものかを改めて考えてもらいたいと思います。それを通して、失われた者がどういう人たちであるかを理解することができると思います。私が高い崖に近い所に立っていると想像してみてください。そこから見下ろすと雲だけがあるような薄暗くて底がよく見えないほどの深い崖の上です。私が見ると、崖に向かって一歩ずつ進んでいく人たちが見えます。そこには子どもを連れた女性もいます。少しずつ崖に近づいて行きます。彼女は目が見えていないのです。彼女はその崖から一歩目を踏み出しました。そこにはもう地面がありません。彼女は幼い子どもと一っしょに崖から落ちていきました。あとには泣き声とうめき声だけが残り、その声はより大きく響きました。他の人たちも同じように崖に向かって歩を進めています。彼らすべての人たちも目が見えていない状態で、その崖へと進み、一人ひとりその崖から底へと次々に落ちていきます。崖から落ちていく人たちは必死で空をつかむようにもがきますが、どうしようもなく、真っ逆さまに底へと落ちていきます。しかし、不思議なことに、だれ一人としてそれを止めようとしません。落ちていく人たちは警告を受けることなく崖から落ちていきます。崖の底は落ちた人々の血で真っ赤に染まっていきます。そのように人々は地獄へと向かい続けて行くのです。

一方で、崖に近いところには他のグループの人たちも見えます。彼らは自分たちのことを「クリスチャン」と言っています。その人たちは教会の中で働きをしています。彼らは自分たちが天国に行くことだけを喜んでいますが、私は「なぜ、あなたたちは喜んでいるのですか？あなたたちの働きはまだ終わっていませんよ。」と言いますが、彼らは自分たちが天国に行くことだけに目を向けているのか、地獄に落ちていく人たちを横に見ながら自分だけ喜んでいて状態です。クリスチャンと呼んでいる一人の女性が手を振っています。私は「天国に行きます」と手を振っている彼女に対して、家族や親戚たちは「あなたの救いを伝えるという働きはまだ終わっていないでしょう…」と言っています。しかし、その女性はもう生きることに疲れてしまっていて天国に行って自分が休むことしか考えていません。

ですから、私はその人に対して「地獄に向かっていく人たちにだれが福音を伝えるのですか？」と言うでしょう。クリスチャンと呼ばれるグループの人たちは、神に向かって賛美をささげたり祈りをしています。彼らはまるで耳が聞こえていないような状態です。彼らの横で崖から落ちて行く人たちの叫び声がまるで聞こえていないかのようです。

皆さん、ビジョンを掴んでもらえましたか？人々は地獄に向かって落ち続けています。ですから、その落ちていく人たちは「救いが何なのか？」ということを考える必要があるのです。どうか皆さん、クリスチャンと自称しながら、崖から落ちていく人たちに目を向けず、聞こえない振りをするような人にならないでください。私たちの救いは決して終わりではありません。これは終わりではなく始まりです。神が私たちにどのようなことをして欲しいのかの始まりです。私たちに多くの愛する者たちがいます。

そして、その人たちは救いを福音を必要としています。皆さん、今、自分のしていることだけに満足しているようであってほしくありません。21節でイエスが弟子たちに「父がわたしを遣わしたように、わたしもあなたがたを遣わします。」と言われた通りです。もし、皆さんが愛する人たちにまだ福音を伝えていないなら、いったいだれがそのことをするのでしょうか？ある人は「私はまだその働きをするのに準備ができていません。」と言うでしょう。また、ある人たちは「私にはそのような失われていく人たちを助ける力がありません。」と言うかもしれません。

### Ⅲ. 不適切な者から適切な者へ 22節

三つ目のポイントを見ていきましょう。22節「そして、こう言われると、彼らに息を吹きかけて言われた。「聖霊を受けなさい。」。クリスチャンと言われる人たちは不可能であることを神の不思議な力によって成し遂げる、完成させる者たちです。不可能に思えることも聖霊の力によって、私たちはそれを可能にすることができます。ですから、イエス・キリストは「父がわたしに与えたのと同じもの、聖霊をあなたがたに与える」と言われたのです。ペンテコステの日に関して様々な意見や考え方があります。多くの人たちがこの問題に関して議論しています。神学的に考えて何が起こったのかを議論しています。皆さんに覚えて欲しいのは、聖霊が私たちに力を与えるということです。私たちは実際にペンテコステの日に関わったのかは分かりませんが、分かっていることはその日に多くの人たちが聖霊を受けたということです。多くの男性や女性が聖霊を受けて変えられたのと同じように、今の私たちも聖霊によって変えられるということが大切です。

その聖霊を受けた人たちが大胆にイエス・キリストのことを語ったということを見ることができます。恐れをもっていた弟子たちがその力によって変えられたことによって、他の弟子たちを愛する者となりました。イエス・キリストの宣教の働きに躊躇っていた弟子たちが、聖霊を受けた後、出て行って大胆にみことばを伝える働きをする者へと変えられました。恐れや悲しみで死んでいたような者たちが、聖霊によって強められ、燃える火のようにイエス・キリストに対する熱い思いをもつようになりました。

もし、イエス・キリストに対して熱い情熱を持っていないのであれば、私たちは何者でもないような者と言えるでしょう。もし、皆さんが聖霊にある生活を知らないのであれば、ただ単に何もなければならず、その歩みも何の価値もないと言えます。

ですから、聖霊には、冷たかったクリスチャンが熱く燃える炎のようにイエス・キリストに仕える者へと変えられる、そのような力があります。この聖霊の力は皆さん一人ひとりに神が与えてくださるものです。キリストが弟子たちに息を吹きかけて「聖霊を受けなさい」と言われたように、私たちにも与えてくださるのです。ですから、皆さんも同じように、出て行って福音を伝えるという必要性をここに見ることができます。これがイエス・キリストの宣教の働きというものです。イエス・キリストが「わたしもあなたがたを遣わします。」と言われた通り、それによって周りの人があなたを通してイエス・キリストを見ることができるのです。私たちがイエス・キリストに用いられることを通して、周りの人たちはその救いの働きを見ることができるのです。

私たちが出て行くことによって、人々は罪がどれ程汚れた醜いものであるかを知ることができるようになります。イエス・キリストが「人の子は、失われた人を捜して救うために来たのです。」（ルカ19:10）と言われた通りです。皆さん、自分自身に問いかけてください。もし、私たちが他の人たちに対してイエス・キリストの赦しを話さないなら、人々はキリストにある永遠のすばらしさをどのようにして知ることができるでしょうか？クリスチャンとしてあなたは愛する者や失われている者たちにどのように伝えたいと思いますか？皆さん、先ほど話した地獄のイメージを覚えていますか？私たちの愛する家族や友人たちが、福音、救いを聞くことなしにその崖の底へと落ち続けています。

### 結論 :

- ・人はキリストなしでは死んだ者です。
- ・私たちの世界は聖書のメッセージを欲しています。聖書のメッセージとは、罪深い人間が神にあってイエス・キリストの贖いのわざを通して義とされるというものです。  
この世界の人々は聖書のメッセージを待ち続けていますが、残念なことに、新しい教会であれ古い教会であれ、その人たちは隠れてしまっています。私たちは出て行って福音を伝えるべきではないでしょうか？
- ・あなたはキリストに加わり、キリストの力を得て、キリストが完成される働きを続けていきますか？

メッセージは終わりますが、もう一つ、皆さんにお話ししたいことがあります。私たちクリスチャンは人生がどうなるのかを知っています。人々はどの時代にあっても死んでいきます。数日前、フィリピンにあって、銃を持った一人の男性が五つ星ホテルに入って来ました。彼はそこで人々に向けて銃を

撃ち、その後、ホテルを燃やそうと火を放ちました。当然、ホテルはパニックに陥りました。その結果犯人を含めて37人の人が亡くなりました。彼らは今いったい何処にいるのでしょうか？

私たちの愛する親も子どもたちも必ずいつかは亡くなります。彼らは天国に行くのでしょうか？もし、そうでないのなら、私たちは福音を伝える必要があります。私たちはイエス・キリスとともに働きをするという、その働きに皆さんも加わって欲しいと思います。

**祈ります** : 父なる神さま、このときを感謝します。私たちの人生においてあなたが為してくださったことに感謝します。また、私たちがあなたの命令に従うことによってひとり一人を励ましたいと思います。私たちが失われた人々のところに出て行くことによって、彼らが地獄の苦しみから解かれるように、そのカギは私たちの手のうちにあります。どうぞ、私たちに力を与えてください。あなたの聖霊が私たちがカづけてくださるように。この浜寺聖書教会とすべての人たちに主の祝福を祈ります。